

米穀流通にご関心をお持ちの皆さま

私ども全国米穀販売事業共済協同組合（略称：全米販〔ぜんべいはん〕）は、米穀卸売業者を主たる組合員として組織する全国団体です。組合員は米穀卸売業者として、確かな製品づくりと製品の安定的な供給を通じ、生活者の皆さまをはじめとする社会の多様なニーズに応え、社会に価値ある企業でありたいと考えて、日々努力しています。

さて、皆さまが良くご存知のように、米穀流通を取り巻く環境は、漸次厳しさを増しております。2022年12月9日に開かれた食料・農業・農村政策審議会の第5回基本法検証部会に提出された資料がございます。このなかで、2020年時点で704万トンのだった主食用米需要量が、2040年には493万トンのまで減少すると記載されています。消費が継続的に減少を続ける一方で、稲作農家は高齢化とともに、離農の傾向が顕在化し始めています。いずれも主因は人口減少ですが、米穀販売業者としてコメ食の普及や産地の支援が不十分であったと悔やまれます。2040年の状況は如何なるものか。

ここもと、2024米穀年度（2023年11月～2024年10月）の米穀需給にタイト感が表出し、販売業者間取引相場が急騰しております。これは私ども米穀販売業者の近視眼的な思考に起因するところが大きいと反省する次第です。現状のまま何かしらの行動を起こさなければ、将来的に米穀流通の維持が困難になると予想されます。そこで、昨年度「米穀流通2040ビジョン」作りに着手いたしました。全米販組合員それぞれの中長期経営計画策定に資する叩き台となるのが、「米穀流通2040ビジョン」の役割です。

ビジョンでは、最悪の予想図となる「現実的シナリオ」と、魅力的な米穀流通の姿を描いた「野心的シナリオ」の二つを表しました。今後、徐々に明確になる現実は、恐らくこの二つのシナリオの間になると思料します。将来の米穀流通を、より野心的シナリオに近づけるために、全米販は精進して参る所存です。全米販組合員が一丸となり、その存在意義を高めます。

米穀流通にご関心のある皆さまには、持続発展が可能な米穀流通のために、このような状況を御高察の上、ご助言ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

2024年6月12日
全国米穀販売事業共済協同組合
理事長 山崎元裕